ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 保健医療学部

リハビリテーション学科

義肢装具学専攻

名 前 高見 響

作成日 2026年5月9日

１．責務（何を行っているか、何を果たしているか）

1）科目担当

義肢装具製作技術入門（1年必修）、義肢装具学基礎演習Ⅰ（1年必修）、見学実習（1年必修）、コミュニケーション演習（1年必修）、職業とキャリア形成（1年必修）、義足学Ⅰ（2年必修）、機構学（2年必修）、研究手法演習（3年必修）、義手学（4年必修）、卒業研究（4年必修）

2）学年担任

第1学年

3）委員会

研究委員会、図書館運営委員会

２．理念（教育に対する考え方）

義肢装具士は、義肢装具を必要とされるユーザー人一人に対し、ニーズに合った製品を提供します。ニーズは様々なため、ニーズを正確に把握するにはコミュニケーション能力だけでなく、理解力や想像力も必要となります。また、ニーズを実行するためには基本的な専門知識や技能の他に、ユーザに合った製品を製作するための創造力も必要となります。

そのため、学生には大学生活の中で義肢装具や周辺の領域だけでなく、様々な領域のヒトやモノに興味・関心を持ってもらい、そこから感じたこと、気づいたことを臨床現場で生かしていけるようになることを望んでいます。

３．方法（教育方法において大切にしていること）

義肢装具学専攻のディプロマポリシーの「義肢装具を科学的な根拠に基づいて基本的な専門知識と技能を、医療・福祉・介護・研究などの分野において汎用できること」、「義肢装具士として、人間の尊厳を守り高い倫理観に基づいて、多職種間の連携・協働に貢献できること」とあるように、多職種間の連携・協働に貢献するためには、基本的な専門知識と技能の修得が必須となります。また、多職種との連携・協働のためにはコミュニケーション能力も必要となります。異なる専門領域の人と連携・協働するためには、自分の専門領域の用語や感覚との「差異」を認識、理解し説明する必要があります。

授業の中では、まず学生自身が義肢装具領域の基礎を理解し、説明できるよう心掛けています。

４．成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

「機構学」の授業アンケートでは、授業内で小テストを行う事で、「前回の授業を振り返ることができた」、「知識が身についているかの確認ができた」と自由記述がありました。一方、「計算問題が難しい」、「計算のやり方をもう少し詳しく教えてほしい」との自由記述もありました。そのため、引き続き授業内の小テストは実施することで自己学習を促すとともに、小テストの解答や授業内での計算問題については、計算過程をより丁寧に解説していきたいと思います。

５．目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

第1学年の学年担任かつ1年から4年全てで科目担当があることから、1年間を短期、4年間を中期とする。短期目標としては、科目ごとに学修した知識の結びつきを理解してもらうことを目標とし、各学年で前年までに学修している知識を当該学年で履修する科目と紐づけて授業を行い、理解を深めてもらいたいと考えています。中期目標としては、国家試験の合格を目標とし、4年間をとおして学修した知識の確認を行い、学修状況に応じてフィードバックを行いたいと考えています。